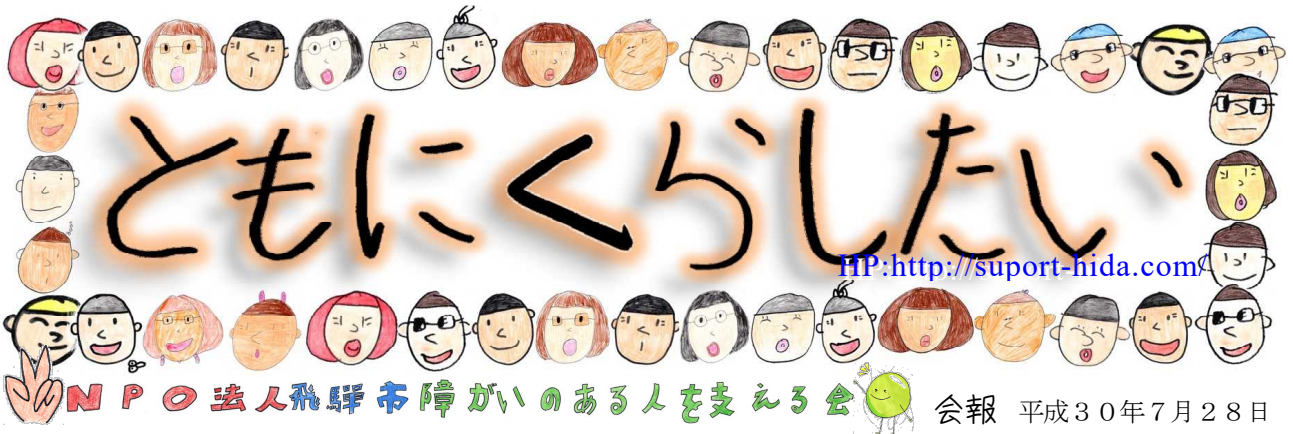


障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして



支えるともは 10年！

副理事長 大坪 英夫

◆飛騨市障がいのあるを支える会の発足

平成20年6月、これまでの神岡町と古川町の手をつなぐ親の会を発展的に解消し飛騨市としてまとまった会「飛騨市障がいのあるを支える会」(以下支える会)をスタートさせました。それは、飛騨市に特別支援学校を設置してほしいという切実な願いがあったからです。

◆「障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくり」を掲げスタート

広く市民から会員を募集しました。賛同してくださった方は、二百三十名にもなりました。当面飛騨市には、発達支援センター設置、県には、特別支援学校設置の要望に取り組みしていくことになりました。

◆飛騨市発達支援センター設置実現

議員の方々に援助いただき、議会請願を行うなか市長さんのご理解をいただき、平成21年4月に飛騨市発達支援センターが開設しました。現在では、人員の充実や医療との連携など更に充実しており障がい児者にとって、とても大切な場所になっています。



◆特別支援学校設置がかなう！

飛騨市のバックアップを受け、飛騨市内に特別支援学校を設置する運動を進めてきました。上の写真は古田知事に設置要望を手渡すところです。

◆平成25年4月 飛騨吉城特別支援学校 開校

とうとう念願が叶い飛騨吉城特別支援学校が古川小学校跡地に建設され、開校しました。開校までの間、私たちは、市民参加によるベルマーク運動を進めてきました。それは、飛騨吉城特別支援学校応援事業であり、飛騨市民に広く飛騨吉城特別支援学校を知ってもらったための取り組みでもありました。開校後もベルマーク運動を続けており、寄付総額は、百万円を超えています。市内公共施設各所にベルマーク改修ボックスを設けていますので引き続きご協力をお願いいたします。写真は、平成29年度のベルマーク贈呈の様子です。奈木理事長が飛騨吉城特別支援学校へ贈呈に向きました。手前の品物が今年度のベルマークで学校で購入された防災グッズです。



障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして

◇平成26年3月 支える会のNPO法人化

特別支援学校開校後、会では、次の目標として、学校を卒業した後、飛騨市内で安心して暮らす場、生活の場、働く場、社会参加の場等の創設に自ら取り組んでいくことを決意しました。そのために、地域福祉の向上に取り組み、すべての人が共に生きる地域社会をつくることを願い、特定非営利活動法人(NPO法人)を設立しました。

◇平成26年5月 支える会は福祉サービス事業所を開設

支える会では、特別支援学校卒業後の人たちを支えるために福祉サービス事業所を立ち上げました。事業所の名前は、利用者さんみなで考え、「ピース」としました。一片一片のピースが集まって一つの絵を完成するように自分たちもみんなが集まって自分たちを完成させたいという願いのもと名付けられました。

◇ピースでは

ピースでは、障がいのある方の日中における活動の場を確保しています。本人にとって居心地のよい環境の中で作業する人、横になって休む人、趣味・おしゃべりをして楽しむ人、いろいろな過ごし方をしながら、ゆったりとした時間の中で自分の居場所を作っていた



みんなと一緒に過ごしたいと考えて、ピースを利用されている方も見えます。

◇ピースでは自立支援活動に力を入れています

利用者の方が毎日安定した日常生活ができるよう外出支援や作業等を通して支援したり、日常生活の習慣づけを行ったり、働きたいと思っ

ています。また働いていたけど体力が続かなかった、仲間関係に疲れた、仕事の適性が合わなくて離職したなどの理由で家にいるけど、また、おしゃべりをしたり、



畑作業



ビンのシールはり



トイレそうじ



野菜の袋詰め



封筒作り



薬草選別

◇支える会は、地域とともに歩みます

支える会の活動は、ピースの運営だけでなく、地域とつながりを持ち、障がいのある方も地域の一員として社会に貢献していく活動を進めています。

一. 地域と連携すること

ありがとうございます。薬草で飛騨を元気にする会、アースアブマザー、山田女性会、えごまレディース、水がかみの会、民生児童委員障がい部会などたくさんの方々と連携しつつ障がいのある方も地域と共に歩む活動をしています。



新成人を祝う会の食事提供
えごまレディース・水がかみの会



餅つき & 花餅作り
市議会議員、袖川地区役員有志

二. アルミ缶回収

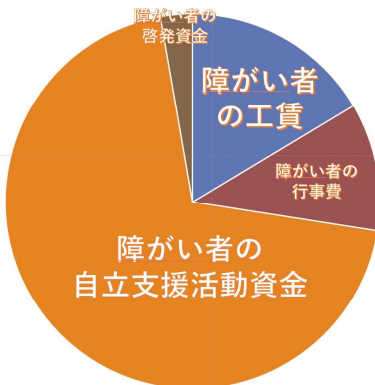
障がいのある人が地域のひとふれあい、貢献できる気持ちを作り出すことアルミ缶回収を始めました。地域の方は、協力していただくことで自ら出来る障がい者支援活動と考え進めています。地域の皆さま方のご協力のおかげで障がいのある人にとって意義のあるものになっています。地域へ自ら足を運んでアルミ缶回収活動を行い、社会参加への第一歩となった

だけでなく、地域の方の励ましやお礼の言葉は、地域住民の一員として認められ励みとなり、作業に対する意欲が向上しました。また、アルミ缶回収の収益は障がいのある人の活動資金として成人を祝う会やクリスマス会等の行事で楽しむことができました。また、



障がいのある人が地域の方に見守られ、「ありがとう」「ご苦労様」という言葉を励みにアルミ缶回収をしています

アルミ缶回収で得られた収益は、支える会の運営費には入れず、すべて障がい者支援に使用しています。内訳は、以下の図の通りです。



今後は、工賃が増えていくよう取り組んでいます。

三. エコキャップ回収

障がい者が出来る社会貢献の一環としてエコキャップ回収を始めました。収益はありま



せんが社会に貢献し、働く意義が大きい活動です。上の写真は、回収したキャップを丸大興業へ搬入しているところです。

このキャップは、リサイクル業者で換金され、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」でワクチンに交換され発展途上国の子どもを救っています。

四. 飛騨市内小中学校とともに

障がい者理解を進めるために、小中学校と連携し、アルミ缶、エコキャップ回収を進めています。下の写真は、古川中学校の生徒がエコキャップの仕分けを自分達の活動として取り組んでいる姿です。



◇未来に向かって

来年は、施設移転の予定です。さらに新しい事業に取り組みながら、活動を充実していくつもりです。よろしくお願ひします。

障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして

ピ
ー
ス
は
た
も
の
が
た
り

「福祉サービスマスター」

山本 裕司



今年のミニトマト

前回お伝えした事業所前の畑には赤と黄色のミニトマトが順調に育っています。ミニトマトが順調に育つていてとてもうれしいです。といいますのもなかなか利用できない利用者さんがおられ、その方が黄色のミニトマトが大好きなのです。昨年同様にミニトマトを目当てにピースに来ていただきたいと思います。

ありがとうございますから借りている畑には、今ミニトマトが収穫時期に入っています。一昨年はトウガラシを育て、利用者さんと収穫し、ファームさんに引き取っていただきました。

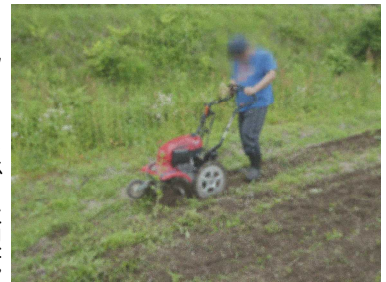
昨年は黒大豆を植えました。利用者さんに活躍していただくのは、種まきや苗植えまでの、肥料まきや土の耕作そして収穫です。



ニンニク畑の様子

今年も新しい利用者さんに耕耘機を使って耕作していただきました。その方は耕耘機を使うのは初めてというおられましたが、順序よく使えるようになっていきます。

今年も、利用者さんに種まき・収穫・販売までを体験できるように、大根を育ててみたいと考えています。



耕耘機で土おこし

『お知らせ』

飛騨市やさしいまちづくり応援事業に応募し、合格しました。事業概要は、「飛騨市では、子どもから高齢者まですべての市民が安心して暮らせる、やさしいまちづくりに対する活動を応援します。市民自ら地域や生活の課題などについて（下へ続きます）」



ありがとうございました！

『寄付お礼（団体のみ掲載）』

東日本チャリティ実行委員会 様 四万円

個人の方からも、たくさんの御寄付、物品をいただきました。

皆様の温かいお気持ちに感謝申し上げます。



飛騨吉城特別支援学校の方から感謝状をいただきました。贈呈の様子は、1ページの写真をご覧ください。

いって考え、皆が支え合う地域社会の実現を目指さべく、地域福祉の推進や、福祉のまちづくりにおける課題解決の活動を行う団体を公募し、審査に合格した団体に対し活動費の一部を助成します。とあります。支える会では、飛騨市内小中学校児童生徒と連携し、障がい者理解と障がい者支援を核に、子どもから高齢者まですべての市民が安心して暮らせる、やさしいまちづくりを推進していきます。